

科目名 Course Name	簿記 I Bookkeeping I	ナンバリング No.	C1-006				
年次	1年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	山崎 好一						
連絡方法	C-Learning で対応						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1, DP2, DP4						
授業の概要と到達目標	簿記を初めて学ぶ人を対象に、簿記の基本である取引とその仕訳を中心に、講義、演習を行う。簿記とは何かといった簿記の基本を学習する。日商簿記3級資格取得を目指す受講者は、本講座の授業と合わせて相当数の時間を割いて自習をしなければならない。検定試験の指導については、後日、連絡する。						
授業の方法	演習テキストに沿った講義とグループワークによる問題演習で簿記の基本を習得する。毎回ピアインストラクションを実施し、講義内容を明確にする。又、ミニツツペーパーを行い、理解度を把握し、その後の授業に役立てる。						
学習成果	L01						
	L02	現金取引の仕訳・商品売買の仕訳ができる。					
	L03	仕訳後の転記と試算表の作成や、その他の取引の仕訳ができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	授業で不明であった点は、必ず次回授業までに調べておくこと。又、科目担当者に質問に行くこと。						
教科書/参考図書	合格テキスト日商簿記3級(TAC 出版)ver15 合格トレーニング日商簿記3級(TAC 出版)ver15						
履修上の留意点やルール等	●小テストを毎回理解するように復習すること。●事前・事後の学習に費やす時間の目安は各回180分とする。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:税理士 職歴:1984年～現在に至る) 簿記の基本や仕訳を中心とした講義、日商簿記3級検定指導に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート/作品					
発表					
小テスト	授業の進捗に合わせて確認テストを行い、理解度に応じて評価する。		20	10	
試験	授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。			70	
その他					
合計			20	80	

回数		授業計画
1	授業内容	シラバスの説明、概要説明、簿記とは
	事前・事後学習	テキストの第一章を呼んでおくこと。
2	授業内容	簿記上の取引と仕訳の8要素
	事前・事後学習	取引と仕訳の8要素について復習すること。
3	授業内容	仕訳と転記を明確にする
	事前・事後学習	仕訳と転記を理解すること。
4	授業内容	試算表の作成(簿記一巡の流れより)を行う
	事前・事後学習	試算表の理解をすること。
5	授業内容	現金と仕訳、転記(現金の入出金の把握をする)
	事前・事後学習	現金の入出金の理解をすること。
6	授業内容	収益と仕訳、転記(収益の種類と金額を確認する)
	事前・事後学習	収益の種類と金額を復習すること。
7	授業内容	費用と仕訳、転記(費用の種類と金額を確認する)
	事前・事後学習	費用の種類と金額を復習すること。
8	授業内容	当座預金と仕訳、転記(当座預金の入出金を明確にする)
	事前・事後学習	当座預金の入出金を復習すること。
9	授業内容	商品売買Ⅰと仕訳、転記、小テスト(商品の売買と現金取引について明確にする)
	事前・事後学習	小テストの復習をすること。
10	授業内容	商品売買Ⅱと仕訳、転記(商品の売買と値引返品について明確にする)
	事前・事後学習	商品の売買と値引返品について復習すること。
11	授業内容	その他の取引Ⅰと仕訳、転記(貸付金と借入金取引を明確にする)
	事前・事後学習	貸付金と借入金取引を復習すること。
12	授業内容	その他の取引Ⅱと仕訳、転記(立替金と預り金、固定資産の取引を明確にする)
	事前・事後学習	立替金と預り金、固定資産とは何かを調べておくこと。
13	授業内容	試算表の作成Ⅰ(試算表の種類と作成方法を明確にする)
	事前・事後学習	試算表の種類を調べておくこと。
14	授業内容	試算表の作成Ⅱ(仕訳から試算表の作成ができる過程を明確にする)
	事前・事後学習	仕訳から試算表の作成を復習すること。
15	授業内容	前期の振り返りを行い、簿記の基礎を確認する。
	事前・事後学習	日商簿記検定に向けて復習すること。